

海外渡航歴のない患者から NDM-1 型 CPE が検出された一例

©水阪 隆¹⁾、宇都宮 加奈¹⁾、丸山 望美¹⁾、森下 理紗子¹⁾、大沼 健一郎²⁾、楠木 まり²⁾、横山 千佳子¹⁾
地方独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院¹⁾、国立大学法人 神戸大学医学部附属病院²⁾

＜はじめに＞NDM 型カルバペネマーゼ産生腸内細菌目細菌 (以下、CPE)は輸入型 CPE と称され、国内での分離頻度は稀である。近年、海外渡航歴のない症例での報告も散見されており、NDM 型 CPE の分離例の報告件数は年々増加傾向にあるが、兵庫県内での報告は現時点では認めていない。今回、我々は海外渡航歴のない患者から NDM-1 型 CPE を検出した症例を経験したので報告する。＜症例＞79 歳、男性。海外渡航歴なし。基礎疾患に糖尿病、高血圧、脳梗塞があり、発熱と前胸部の違和感を主訴に当院を受診。胸部の造影 CT では食道中部から下部にかけて腫瘤を認め、生検により食道癌と診断された。入院にて化学療法を併用しながら、入院 2 カ月後に食道の亜全摘が施行され、その 2 週間後に正中創に発赤を認めたため、培養検査が依頼された。＜微生物学的検査＞創部検体のグラム染色では菌体を認めなかったが、培養検査にて *Escherichia coli* の発育を少数認め、薬剤感受性検査は VITEK2(バイオメリュー・ジャパン)の感受性カード AST-N269 にて実施し、
CMZ: $\geq 64 \mu\text{g/mL}$ 、CAZ: $\geq 64 \mu\text{g/mL}$ 、IPM: $\geq 16 \mu\text{g/mL}$ 、

MEPM: $\geq 16 \mu\text{g/mL}$ であった。カルバペネマーゼ確認検査である mCIM と SMA ディスクを用いた阻害試験はいずれも陽性であり、シーケンス解析の結果、*bla*_{NDM-1} と同定された。なお、追加で尿、便、痰の培養検査を行ったところ、全ての材料で同菌を認め、尿からは NDM-1 型 MBL 産生 *Klebsiella oxytoca* も検出された。＜考察・まとめ＞本症例はグラム染色結果から検出菌に対する積極的な抗菌薬治療は行われなかったにも関わらず、発赤部位の改善が認められたことから、起因性はないものと判断された。一方、入院後 2 カ月以上経過していたため、感染経路の特定を目的とした環境培養と当該病棟患者の保菌調査を実施したが、CPE は認められず、入院前から保菌していたと考えられた。現時点では兵庫県内において NDM-1 型 CPE の分離例の報告はないが、既に市中で拡散している可能性も示唆され、今後の検出状況を注視していく必要がある。
＜謝辞＞本発表に際し、菌株の解析をしていただいた兵庫県健康科学研究所の齋藤悦子先生に深謝致します。